

## 第3回総合球技場基本計画検討委員会

### 検討資料 総合球技場の検討における基本的な考え方

平成30年5月7日

## 総合球技場の検討における基本的な考え方

---

出典：基本構想2ページ

策定に当たっては、整備・運営に対する**県民負担の最小化**を図るため、PFI方式の導入を前提に検討を進め、本県にふさわしい施設の規模や外部資金の活用等によるイニシャルコストの低減、運営収支の改善に向けた収入確保策等の検討を進めることとする。

更に、**利用の最大化**を図るため、全国トップレベルの競技が観戦できる施設としてだけでなく、アマチュアの大会や様々なイベントでの活用に加え、バリアフリーやユニバーサルデザインにも十分配慮し、誰もが利用できる「**県民みんなの球技場**」として整備・運営が図られるよう検討するとともに、小瀬スポーツ公園全体の更なる有効活用方策も併せて検討を進めることとする。

# 総合球技場の検討における基本的な考え方

	1. 県民みんなの球技場	2. 県民負担の最小化	3. 利用の最大化
ソフト面 の方策	スポーツ等多様なイベントでの利用	先進的なスタジアム運営システム	最大利用者であるクラブの運営参加
	スポーツ× での利活用	多様な資金調達手法	客単価・客数それぞれの増嵩策
ハード面 の方策	防災面、環境面での配慮、ユニバーサルデザインの導入	適切な工法による整備コストの削減	公園内他施設との回遊性・アプローチ
	県民誰もが快適に過ごすことの出来る施設整備	コンパクトで無駄のない合理的な施設計画	交通インフラ整備
		県産材等地元製品の積極利用	公園景観への配慮

## 第1回総合球技場基本計画検討委員会での意見

---

地域の誇りとして愛され続けるようなスタジアム、スポーツ以外にも地域社会に大きく貢献できるようなスタジアム、地元のプロスポーツの経営環境にふさわしいスタジアムをみんなで育ていくという意識を持つことが重要。

建設のイニシャルコストだけでなく運営収支も含めて、計画づくりをしっかりとやらなければいけないということが重要であると考えている。その検討にあたって一概にイニシャルコストを低減させることだけを考えるのではなく、運営収支を改善するような投資については、使うところには使うという考え方も必要ではないかと思う。

市民やスポーツ関係の団体の方々から、スポーツを活用して居場所や交流の場をつくりたいというような要望を受けることが多い。住民が主体的にいろいろなイベントを仕掛けて、みんなで楽しい場を創出していくような場になるよう目指せればと思う。

計画や制度設計をするときに、いちばん大事なものはコンセプトや理念を明確にするということである。視点としては、次代を担う若者の視点。ダイバーシティ社会の人たちが幸せになるような視点。シンボルとなるトップスポーツのヴァンフォーレ甲府をオール山梨で育てていくという視点が必要。